

おとなの寺子屋 理科と国語を保護者が学ぶ

札内東中学校のPTAが主催する「おとなの寺子屋」が12月11日に開催され、普段、子どもたちが受けている授業を保護者が体験しました。

久しぶりに「起立・礼・着席」

「おとなの寺子屋」は平成22年から開催され、今年で4回目を迎えます。子どもとの共通の話題、くりなどが目的で始められ、この日は、理科と国語の授業が行われ、24人の保護者が参加しました。



▲山梨先生の説明を真剣に聞く保護者

▼トウモロコシの状態変化



学校のチャイムが鳴ると新保PTA会長の号令「起立・礼・着席」で授業が始まりました。1時間目の理科の授業は「梨政拓教諭が担当し、状態変化の実験が行われます。トウモロコシと油が入ったガラス容器をガスバーナー加熱し、トウモロコシの水が状態変化によってポツポツになる瞬間を確認しました。2時間目の国語は、戸出不教諭が担当し、川柳の授業が行われました。保護者の方は、様々なシチュエーションを先生方の寸劇で示された後、下の句の5文字を推理しました。

札内東中学校 今昔物語



▲札内東中学校



描いて、生徒の強い団結と和を示しています。

途別、古舞、白人の各中学校が統合して開校した札内中学校の生徒数は、その後も年々増加し、プレハブ校舎で急場をしのぐような状況でした。札内中学校のマンモス化を防ぐために建設されたのが札内東中学校でした。校地は、白人小学校の南側に鉄筋コンクリート造り2階建（一部3階建）の校舎が昭和60年2月に完成し、昭和60年4月に開校しました。昭和60年11月には校区の方々の協力により校章が制定されました。札内東中学校の「東」を3つ組み合わせて、白人小学校・札内北小学校・相川小学校の3地区を示しています。その間にある3つの「ペン」は、「知・徳・体」の学習にそしむ姿を表し、中央に円を描いて、生徒の強い団結と和を示しています。

札内東中学校 の沿革

1985年4月(昭和60年) 札内中学校から独立し、札内東中学校が開校(当時の生徒数348人・11学級)
1985年11月(昭和60年) 教育目標・校訓・校歌・校章(校旗)を制定
1986年3月(昭和61年) 第1回卒業式で、3年生93人が卒業

1994年11月(平成6年) 開校10周年記念式典を挙行(東屋と屋外放送機器が学校へ寄贈される)

2000年(平成12年) 学校敷地を流れていた小川を整備・流木アート設置

2004年(平成16年) 開校20周年記念式典を挙行

学校概要

学校長 池浦 暢
教員数 25人
学級数 13学級
(うち支援学級4学級)
生徒数 280人

※概要は平成25年5月1日見込